

「彼岸会ひがんえによせて」

第7組光福寺住職 河合教正

暑さ寒さも彼岸までという言葉の通り、鬱陶うつとうしい雨の多かった今年の夏も過ぎて、朝夕はすっかり涼しくなった今日この頃です。さて、彼岸と申しますと、皆様はどういうイメージをもたれるでしょうか。彼岸とは彼の岸、つまり此の岸に対して仏のさとの世界、苦しみのない世界といった感じでしょうか。彼岸とは本来「到彼岸とうひがん」と言い、煩惱ぼんのうの迷いの此岸しがんを離れ、仏のさとの彼岸に渡るという意味です。つまり苦しみの此岸を離れ、明るい仏の世界に向かっていく事を彼岸に到ると言います。その実践の行を「六度の行」と言い、インドでは波羅蜜はらみつと言います。布施しゆじゆく一執着を離れ施しの行をする。持戒どかじ一仏の教えに従い、正しい行為をする。忍辱じんによく一苦から逃げず、現実に立つ。精進しやうじん一できることを精一杯、努め励む。禪定ぜんじやう一乱れる心を静め、平穏な心を持つ。智慧一真理に目覚め正しい道理に従う。以上六つを六波羅蜜ろくはらみつと言ひ、古来から大切な教えとなつて伝わっています。ところが、私達はなるほどと頷いてはみても、そのように生活をしていく事は至難な事だと思ひます。この夏タレントのSなる人が数年前から覚醒剤を使つていたことがマスコミによつて大々的に報道されました。それまでは清純だと思われていたイメージが一挙に瓦解がみかいしました。「外ほかに賢善精進けんぜんしやうじんの相を現あらわすことを得ざれ、内うちに虚仮こけを懐いだけばなり」と親鸞聖人は善導大師の教えを読み変えられました。我が心の中は、嘘・偽りで一杯であると。念仏はこの私に本当の姿を教へてくださる智慧はつちの用きであります。